

授業科目名	日本語教育演習Ⅱ	単位数	1
担当教員名	遠藤 みどり	担当形態	単独
実務内容 (実務家教員の場合)	外国人に日本語を教え、日本語教師を目指す人に日本語教育の実習指導をする。		
<p>「学位授与の方針」との関係</p> <p>多様な人々や生命に対して、他者を認め、他者を排除せず、仲間を作るという星槎の三つの約束の精神に則って、共生社会の創造に貢献する姿勢を身につけていること。</p>			
<p>授業の到達目標及びテーマ</p> <p>1) 母語としての日本語と外国語としての日本語の違いに目を向ける。</p> <p>2) 日本語学習者に対するかなを中心とした文字指導。</p> <p>3) 初級日本語授業を行う際の実習教案の作り方。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>日本語教育関連科目（特に「日本語教授法」）で学んだ知識に基づいて実際の授業をする上での手法を学ぶ。特に読み書きにかかわる文字言語について、どのように指導すれば理解しやすいか、どのような点が習得しにくいを受講者の考察やグループワークなどアクティブラーニングの手法も用いて検討する。その後、実際の授業教案も受講者と一緒に考えながら作り、この科目修了後の「日本語教育実習」へとつなぐ。</p>			
<p>授業計画</p> <p>1) 事前学習①ネイティブでない学習者にかなをどのように教えたらいかがを考えてくる。 事前学習②日本語を教えるとはどういうことか、日本人に国語を教えることとの違いを考察し、整理してくる。</p> <p>2) スクーリング1日目（第1回～第7回） スクーリング2日目（第8回～第15回）</p> <p>3) 科目修得試験（課題形式）</p>			
<p>スクーリングでの学修内容</p> <p>（1日目）</p> <p>ガイダンス(この科目の目的と内容)</p> <p>第1回 外国の見知らぬ文字を学ぶとはどういうことか。</p> <p>第2回 事前学習で考えてきたことの発表。</p> <p>第3回 ひらがなの教え方</p> <p>第4回 ひらがなの教え方（特殊音）</p> <p>第5回 カタカナの指導</p> <p>第6回 漢字の教え方</p> <p>第7回 第1回～6回のまとめ</p> <p>（2日目）</p> <p>第8回 事前学習で考え、整理してきたことを発表。全体で話し合う。</p> <p>第9回 日本語の教科書の分析</p> <p>第10回 どのように授業を組み立てるか。</p> <p>第11回 文型導入の方法</p>			

第 12 回 導入した文型の練習の仕方

第 13 回 教案の作り方

第 14 回 考えた教案を授業時間を想定して文字に書きおこす。

第 15 回 まとめ

テキスト

『新・はじめての日本語教育 2』アスク出版

『みんなの日本語 初級 I』スリーエーネットワーク

参考書・参考資料等

『文字・語彙を教える』国際交流基金

学生に対する評価

スクーリング評価（50%）、科目修得試験（50%）を総合して評価する。